

『今まで参加したことのない大会に参加する』

3月26日（日）遠征から帰って来て大相撲をチェックしました。

久し振りに相撲を見て「感動」しました。新横綱の稀勢の里関は怪我をしながらも、休場せず土俵に上がり続けていました。それだけでなく、さらに痛みに耐えながら最後まであきらめることなく取り組みを続け、見事優勝しました。対戦相手もやりにくいところはあったと思います。

多くの方が感動したのではと思います。自分で決めたこと、土俵に上がり続けることを最後まで貫き、そして今できることを精一杯やり抜いた。この姿勢を見たら多くの人は大体感動します。やり抜く力、諦めない勇気、とても素晴らしく私も大切にしたいと思いました。

3月の遠征は終了！

3月19日（土）、20日（日）は宮城県、25日（土）、26日（日）は長野県への遠征で、計7試合行うことができました。

結果は3勝4敗。7試合のうち先取点を取れたのが2試合のみ。いつも追いかける状態でした。だからどうしても疲れる試合ばかりでした。ただ、生活環境の違いからくる心・身体的不安定さ・バス移動による疲れなど直接的ではなくても中学生時代に難しい面もあると思います。でも頑張らなければ試合には出られません。もっと強い気持ちで野球に取り組んでもらいたい。

<特に1イニングに大量失点が目立つ>

まず、投手陣。まだまだ春先だからか①ストライクを取れるストレートと変化球がまだ身に付いていない。しかしイニングによってはうまく抑えることもあるが、ただ一度打たれてしまうと連打、あるいはその間にB、あるいはEが挟まってきて相手の流れを断ち切ることができず、大量失点となってしまっています。投手はこれからもっとフォームのチェックが必要になってくると思います。また、試合中投手がパニック状態になった場合は②ゲームリーダーの声掛けあるいは捕手が瞬時にタイムをとることで心の切り替えの時間ができ、修正能力のスイッチがはいることだと思います。守備側はゲームノックなど増やしながらか、場に応じた対応が的確にできるよう対応していきたい。

<塁に出た場合、積極的なリードが目立つ>

冬から練習してきたリードの仕方。試合中ベンチから見ていると、全員ではないがそんなに出て大丈夫なの！というくらいのリードを取っています。でも今のところけん制で刺されることはありません。これからもっとけん制の上手な投手に当たった時が大変ですが、とにかく我がチームは足を生かしながらか得点していくチームですので、積極的にトライするしかありません。

<フルスイングの大切さ>

甲子園に出場している高校生のスイングを見ていると、本当に初球のストライクを怖がることなく、空気を切る音がこちらに聞こえてくるくらいの迫力のあるフルスイングです。振りながら投手のボールに対応しようとしているように思われます。そこで投手が一つ間違えたとしっかりミートし長打になっているのだと思います。我がチームは練習ではある程度できていると思われていますが、実際試合になるとそこまでしっかり振れていないように思われます。今後はあまり結果にこだわり過ぎず、タイミング・骨盤のターンを考え、もっと速いスイングに繋げていきたいと思っています。

<挑戦者たるもの、ぶれない心で何事もやり抜く>

- ・全員で同じ方向を見て活動する。
- ・試合では名前負けしない。
- ・野球は何が起こるかわからないスポーツだけに、最後まで諦めない。勝つという強い気持ちをもって試合に臨む。
- ・ダッシュ力を高め、前のボールに対して素早くチャージする。
- ・この場面で何があるかイメージして対応する。